

数学科 中学校 3年

単元の流れ（全4時間）

【第1次】 標本調査の必要性和意味

主な学習内容

◇第1時 全数調査と標本調査の違いや標本調査の必要性和意味を理解する。

【第2次】 簡単な場合についての標本調査

主な学習内容

◇第2時 母集団から無作為抽出により標本を抽出することと、母集団の傾向を推定することについて学習する。

【第3次】 母集団の傾向をとらえ説明する。（本時）

主な学習内容

◇第3時 母集団の傾向をとらえ説明することを通して、標本調査について理解を深める。

【第4次】 学習のまとめ

主な学習内容

◇第4時 章末問題を解く。

CLICK

評価問題

単元名 資料の活用

啓林館「未来へひろがる数学3」

（移行措置）

単元目標

○コンピュータを用いるなどして、母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る。

「活用」の力を育てるポイント

- ① 母集団からその一部を取り出して整理し処理することで、全体の傾向を推し測れることを体験的に理解できるようにする。
- ② 標本調査から母集団の傾向をとらえ説明する。その際、予測や判断についての根拠や調査の方法・結論について伝える活動等を通して理解を深められるようにする。
- ③ 日常生活や社会における事象に関する問題解決を重視し、生徒の活動を中心に展開させる。

単元構成の意図

中学校数学科において第1学年では、目的に応じて資料を収集して整理し、資料の傾向を読み取ることを学習している。第2学年では、多数回の試行を行って資料を集めることにより、不確定な事象の起こりやすさに一定の傾向があることを学習している。本単元では、これらの学習の上に立って、母集団の一部を標本として抽出する方法や、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解できるようにする。

母集団から、標本を抽出する例として、学級単位を取り上げた。母集団を学級単位とするのは統計的には数が少ないが、ここでは、生徒の身近なものを取り上げ活動させることにポイント置いた。

本時の流れへ

HOME

